

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価（3月27日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の知的好奇心を喚起し、思考力・判断力・表現力を高めるとともに、探究する力を育み、希望進路を実現する教育課程編成や組織的な授業研究・実践に取り組む。 ②学校行事や生徒会活動等における生徒の主体的な取組の促進を図る。	①新教育課程4年目以降を見据えて、希望進路を実現する教育課程編成の見直しを行う。 一人1台端末の有効的な活用方法について研究する。 ②学校行事を通して、主体的に考え行動する力と、コミュニケーション能力を伸ばす。	①教育課程研究委員会を開催して教育課程の課題を洗い出し、令和7年度入学生に向けた見直しを行う。授業研究・校内研修を充実させ、一人1台端末の有効的な活用方法の共有を図る。 ②学業等との両立ができる環境を作り、生徒が主体的に学校行事等に取り組む力を育む。	①希望進路の実現に十分な教育課程となっているか検討する。生徒による授業評価により、一人1台端末の活用に対する満足度を図る（60%以上） ②学校行事等で主体的に計画・実行し問題解決をする生徒が増えたか。	①教育課程研究委員会を開催し、各教科または学校全体を見据えた課題の洗い出しを行った。生徒による授業評価により、端末の有効活用についての満足度が68%となった。 ②学業と行事等を両立できる環境を整え、昨年度以上に生徒が主体的に行事に取り組む力を育むことができた。	①教育課程編成の「進路の実現に十分な教育課程」に向けた具体的な改善には至っていない。令和7年度入学生は微修正を、令和8年度入学生に向けた改善案を検討中である。端末については、校内研修等により、活用の充実を目指す。 ②生徒主体で行事等をより具体的に計画・実行し問題解決できる力を育む。	①授業評価の活用をさらに進めてほしい。端末については活用が進んでいることがうかがえる。 ②行事が生徒主体となり活性化しており、評価できる。教員の業務量との関係もあるが、さらに活発化することを望む。	①進路実現のために有効な教育課程を具体的に進める必要がある。端末は有効に活用され始めていると思われる。 ②年々学校行事が生徒主体で企画・運営されてきている。ただし、教員の業務量とのバランスを検討する必要もある。	①生徒の進路実現に向けての教育課程について、具体的な見直しと編成を進めていく。 ②企画・運営のすべての面で中心となるように、運営委員会の発足時期を早め、その素地を形成する。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①多様な生徒の個に応じた支援体制の充実を図る。 ②個性を重んじるとともに、他者への共感力と協働的な行動を尊ぶ姿勢を育成する。	①生徒の多様性を尊重し、教育相談の支援体制の理解を深め個々の情報を共有するための効率的なシステムを構築する。 ②部活動等を通して、自己の可能性に自ら挑戦する力や、他者と協働する力を育む。	①SC、SSW との詳しい情報をコア会議やケース会議で共有するなど関係職員へ迅速に周知し有効活用する支援体制の充実を図る。 ②学業との両立を図りつつ、生徒の満足度の向上を目指す。	① SC、SSW との情報交換を密にし、支援の必要な生徒に対し情報共有を迅速に行う支援体制を充実させ、課題解決につながったか。 ②目標達成のための部活動の方針に即した客観的な指導体制が確立できたか。生徒の部活動満足度が向上したか。	①サポートドックで全生徒を対象をスクリーニングし、SC、SSW と検討して担任がプッシュ面談を行った。詳しい情報を学年会、コア会議やケース会議で共有するなど関係職員へ迅速に周知し、有効活用する支援体制の充実を図った。 ②学業との両立を図ったが、生徒の満足度の向上には改善の余地がある。	①学期ごとのサポートドックを活用しSC、SSW との情報交換を密にすることで、支援の必要な生徒に対し情報共有を迅速に行っている。関係機関との連携など適切な対応ができたか検証し、さらなる支援体制の充実を図る。 ②生徒の満足度を向上させるために、より効率的な指導体制の確立を目指す。	①サポートドックの活用により、多くの生徒への声掛けができていることは評価する。 ②部活動参加率が高いことは評価できる。大会の実績などから活発化している様子も感じられる。	①教育相談体制は整ってきているが、生徒の多様性に対応する必要がある。 ②部活動加入率が例年に比べ若干落ちたが、学業との両立を図り、多くの部活動を活性化させることができた。	①多様な生徒の支援のため、研修を行うとともに教育相談体制の充実を図る。 ②さらなる学業との両立を目指して、生徒が継続して部活動に取り組める環境を整える。
3	進路指導・支援	・生徒が自らの資質・能力の向上を自覚できる進路指導を実践し、生徒の「挑戦」を支援する。	・高い目標を持って生徒が「挑戦」し、希望の進路を実現できるよう組織的取組の推進を図る。	・生徒の希望をもとに目標指標を定め、Classi の効果的な活用、外部模試、進路講演会、保護者向けの情報発信を行い、生徒が高い目標に挑戦できるよう組織的に取り組む。	・自らの進路活動に満足したかどうか。 ・進路未決定者が10%未満かどうか。 ・模試の定点観測を行い学力が向上しているか。	・進路アンケートでは進路活動がうまくいったと考えている生徒が75%弱と昨年度よりも減少した。 ・過去年度との比較から現状把握に努め、課題を認識させて取り組ませた。	・一般受験の生徒の方が進路活動における満足度が低い傾向があるので、進路希望実現に向けた学力向上に組織的に取り組む。 ・最後まで粘り強く取り組ませて進路決定を目指す。	・進学受験方法の多様化が進んでいるので、情報収集に努め、生徒に対しさらなる有効な支援ができることを望む。	進路アンケートの結果はおおむね満足ととれる。より高い目標に挑戦する意識を養いたい。	組織的に進路指導に取り組むことで、進学意識の向上に努める。
4	地域等との協働	・主体的な諸活動により地域社会との協力関係を築く過程で、地域に開かれ、地域に貢献する学校づくりを推進する。	・地域社会と交流する機会を積極的に設定し、学校行事等の情報を広く発信することで地域に開かれた学校を目指す。	・ホームページに掲載する動画を活用した学校行事等の紹介や、定期的に実施する地域の清掃活動・防災への取り組みを通して、地域との交流の機会を設ける。	・地域社会との積極的な交流が計画通り実施できたか。 ・情報媒体を活用した地域社会への発信が計画の通り実施できたか。	・清掃活動や防災への取り組みを通して生徒が地域社会をより知ることができた。また、地域の方々に生徒の様子や活動状況を見ていただく機会となった。	・地域との交流を深めるための方策を模索する。	・自治会を招いての防災訓練実施は評価できる。学校ホームページの充実度も評価できる。	学校主体の交流は進んだが、生徒と地域の交流に機械を増やすことが課題である。	地域との交流について生徒も交えて方策を模索する。
5	学校管理 学校運営	①学校施設・設備の管理、校内美化に取り組む。 ②事故なく、効率的な働き方を推進する。 ③外部に対する情報発信を充実させる。	①校内美化に取り組み学習環境を整える。 ②不祥事防止研修を充実させるとともに、働き方改革を推進する。 ③適切な学校情報を発信する。	①日常的に清掃活動に取り組み、学習環境を整える。 ②不祥事防止研修を通して事故防止の意識を高めるとともに、働き方の改善を行っていく。 ③学校説明会等を充実させ、ホームページの更新に努め、本校の魅力や特徴がより伝わるように改善に努める。	①清掃活動を通して、学習環境を整えることが出来たか。 ②アンケートにより、不祥事防止の意識が高まったか。時間外勤務が昨年より減少したか。 ③学校説明会等を通じ、本校の魅力を十分に発信できたか。アンケートによる満足度が7割以上	①分別への意識が高まるとともに「キレイな大船高校」になりつつある。 ②毎月実施した不祥事防止研修により、意識を高めることができた。時間外勤務の軽減にはいかなかった。 ③学校見学会・説明会を受検生・保護者のニーズに合わせて実施し、概ね好評で	①分別の意識は高まっていると感じるが、完璧ではない。次年度も呼びかけ続ける。 ②不祥事防止研修がマンネリ化しないよう工夫が必要である。また、業務内容の精選だけでなく業務量の偏りについても改善の必要がある。 ③開催時期および実施内容	①清掃意識を今後も醸成していったほしい。 ②働き方改革のさらなる推進に努めてほしい。 ③生徒主体となった説明会等は好感が持て、評価できる。	①校内の清掃は行き届くようになった。 ②不祥事防止の意識の醸成とともに、風通しの良い職場づくりの推進に努める。 ③学校説明会、ホームページ等を通じて、本校の魅力と情報を発信できた。	①美化意識をさらに向上させ、きれいな大船高校を維持する。 ②研修により、人権の意識を向上させる。 ③本校を第1志望としてもらえるよう、中学生や保護者に向けてニーズ

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価（3月27日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
					上を維持できたか。	あった。志願増に繋がったと思われる。ホームページの更新がこれまでよりスムーズに行えた。	をよりよく改善する。更新に時間がかかるところもあるので、更に働きかけをしていく必要がある。			をつかんだ情報発信をしていく。